

第4学年 国語科学習指導案

日 時： 令和7年10月29日（水）
第5校時 13:30～14:15
学 級： 4年1組 26名
会 場： 4年1組教室
指導者： 尾久第六小学校 4年担任

自分の考えをもち、主体的・対話的に学びを深める児童の育成
～国語科「読むこと(文学的文章)」を通して～

1. 単元名 つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合おう

教材名「友情のかべ新聞」 はやみね かおる作

2. 単元の目標

知識及び技能	・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。(知(1)オ)
思考力、判断力、表現力等	・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。(思C(1)エ) ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思C(1)オ)
学びに向かう力、人間性等	・積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わり結び付けながら想像して読み、学習の見通しをもって、おもしろいと思ったところを伝え合うことができる。 ・話し合いを通して、友達に共感したり自分の考えを広げたりすることができる。

3. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	① 積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わり結び付けながら想像して読み、学習の見通しをもって、おもしろいと思ったところを伝え合おうとしている。 ② 話し合いを通して、友達に共感したり自分の考えを広げたりしようとしている。

4. 児童の実態

本学級は、男子13名、女子13名、計26名の学級である。読書が好きな児童が多く、よく本を読んでおり、読み聞かせをしても共感的に話を聞くことができる。4月に行われた全国学力調査の結果では、個々の差はあるものの、4教科の中で国語科が全国の平均正答率よりも1番高い水準にあり、物語文・説明文ともに叙述をもとによく内容を捉えている子が多い結果となっている。

よく本を手をしているが、それぞれに好きな本があって、自分の好む分野の本を中心に読む傾向が強い。漫画や絵本の方が手に取りやすく、読みやすいといった児童も見受けられる。ミステリー要素のある本をよく手に取っている子もあり、「ミルキー杉山の名探偵」「おしりたんてい」「IQ探偵ムー」「放課後ミステリクラブ」「ひみつの小学生探偵」シリーズと同じシリーズで読み進めている子もいる。1学期には、さらにいろいろな本との出会いを応援するため、司書の先生の協力のもと「あまみきみこさんの作品やふしぎな出来事が起こる作品（白いぼうし）」「今西祐行さんの作品や平和を願って書かれた作品（一つの花）」「今森光彦さんの作品や尾久六小のトレジャー本（本のポップや帯を作ろう）」の並行読書に取り組んだ。

本単元では、今まであまり読み物に興味がなかった子や、ミステリーに縁がなかった子には、新たな本との出会いのきっかけを作ること、ミステリーの楽しさを味わってもらいたい。そして、児童それぞれの実態に合わせた本の並行読書に取り組みながら、物語を読む力を育て、読書の幅を広げていきたい。

5. 単元について

はやみねかおる氏によって書き下ろされたミステリー作品である。主たる登場人物は三人で、出来事の当事者の「東君」と「西君」、そして「ぼく」である。「東君」と「西君」は、仲が悪かったが、かべ新聞作りをきっかけに変容していく。そこに隠された秘密を、「ぼく」が客観的・論理的に、謎解きのように説明していく形で物語が書かれている。

ミステリーという作品の特性をいかし、児童に叙述に着目して物語を読む楽しさを実感させたい。また、推理のための伏線が周到に用意されており、児童が伏線のつながりを考えたり、発見したことを伝え合うおもしろさを感じたりできるように工夫していきたい。

6. 研究主題に迫るための手立て

(1) 確かな知識・技能の習得

・読書活動

興味の幅を広げ、新たな本との出会いを応援するために、並行読書の時間を余裕をもって設定する。教科書に紹介されているミステリーの本を中心に精選し、学校の図書室にあるミステリー関連の本を児童の実態に応じて読める環境を整える。並行読書を通して読んだ本については、誰がどの本を読んだのかが分かるように教室内に掲示する。また児童に「おすすめの本」を選ばせ、友達も読んでみたくなるようなキャッチフレーズを一言メモに書いて、本の表紙の写真に添えて掲示していく。掲示物を通して児童同士が自然にミステリーの本について意見を交わしたり、新しい本を手にするきっかけとなったりするように工夫する。

単元の最後には、読んできた本について伝えたり、友達が勧めている本を読んだりすることによって、みんなでミステリーの面白さについて共有できるようにする。

(2) 単元構成の工夫

・単元全体の目標の明確化

最初に本文の途中までを読み自分で推理してみる活動を取り入れることで、どうしたら「ぼく」の

ように推理できるのかを考えさせ、学習計画を立てる際のヒントや意欲につなげる。【捜査】していくという目的をもつことによって、叙述をよく読むことの必要性を感じながら、叙述に着目して繰り返し物語を読むことの楽しさを、改めて実感させる。

・ワークシートの工夫

本文を A3 判 2 枚にまとめた全文シートを使用する。第七場面までを上段にまとめ、導入では、そこまでを読み、1 枚目の下段に自分の推理を書いて貼る。そして、最後の場面を 1・2 枚目の下段に貼る。児童が、自分とぼくの推理を比較したり、本文の中でつながりを見つけていたり、友達の意見を書き込んだりしやすいのではないかと考えた。また、意見を交流する際にもワークシートを手に交流することで、自分が考えの根拠とした叙述と友達のそれとを比較しながら交流を深めていけるようにする。

(3) 学びを深めるための工夫

・学習形態の工夫

【捜査】の過程では、まずは一人で読んでいく。その後、さらに一人で考える・友達と考える・先生にアドバイスをもらう、といった中から子供たち自身が学習形態を選択し、考えたり、交流したりしていく。「ぼく」の心情は、「心情スケール」を用いて可視化する。心情スケールをもとに、叙述に基づく根拠を見つけ、近い意見の友達や、違う意見の友達と交流していく。叙述に着目して読み返したり、友達と意見を交流したりしていく中で、新たな解釈や発見に出会ったり、学習を深めていったりできるようにしたい。また、ワークシートやノート、全文シート、ホワイトボード等、いくつかの選択肢を提示し、その中から児童が選び【捜査】を進めていく。児童が自分のやりやすいスタイルで学習を進めるとともに、考えを深め交流が活性化する一助となるように工夫する。

1 学期は、ある程度自分の考えを形にしてからの交流が多かったが、それだと友達の考えや意見を取り入れたり、自分の考えをさらに深めたりといった変容があまり見られなかった。そこで、早い段階から交流したり、自分で選択して必要があれば自由に交流したりすることで、一人一人がより意義ある主体的・対話的な学びとなることを目指す。

7. 単元の指導と評価の計画

時	◆目標・学習内容	評価		
		知 技	思 判 表	態 度
0	◆単元の学習内容に見通しをもち、これからの学習に関心をもつことができる。 ・「にやんにやん探偵団」の読み聞かせを聞き、「読んでみたい」や「謎を解いてみたい」という関心をもつ。 ミステリーの本を並行読書して、読んだ本の記録を教室背面に掲示する。			
1	◆リード文や7段落までを読み、「ぼく」に代わって推理をすることができる。 ・リード文を読み、物語についての想像を膨らませ、ミステリーを読むことに関心をもつ。 ・7段落までを読み、「ぼく」に代わり「月曜日の放課後何があったのか。」を推理してみる。			① ◎積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わり結び付けながら想像して読み、おもしろいと思ったところを伝え合おうとしている。 <発言・記述>

2	◆「ぼく」の推理を読み、推理するのに必要なものは何かを考え、学習計画を立てることができる。			①	◎積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わり結び付けながら想像して読み、おもしろいと思ったところを伝え合おうとしている。 ＜発言・記述＞
3	◆【捜査①】登場人物の特徴が分かる叙述を見つけて人物像をまとめることができる。				
	・「東君」と「西君」を中心に、人物像につながる叙述を見つける。 ・話し合う相手を選んで、考えを交流する。 ・学習形態を選択し、人物像についてまとめる。	①			◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 ＜発言・記述＞
4	◆【捜査②】事件が起きるまでの出来事をまとめることができる。				
	・時間を追いながら、出来事に関する叙述を見つける。 ・話し合う相手を選んで、考えを交流する。 ・学習形態を選択し、出来事をまとめる。	①			◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 ＜発言・記述＞
5	◆【捜査③】「ぼく」の推理と出来事をつながりを見つながら読むことができる。				
	・「ぼく」の推理で、どの叙述と叙述がつながっているのかを、本文に線を引きながら確かめる。		①		◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 ＜発言・記述＞
6 本 時	◆「東君」と「西君」は、これからどうなっていくのか、今までの【捜査】や叙述をもとに考えることができる。				
	・学習してきたことを振り返り、心情スケールを使って、最初の「東君」と「西君」の険悪な関係について確認する。 ・心情スケールを使って、今後の二人の関係について自分の考えを表現する。 ・友達と意見を交換する。 ・自分の推理をまとめ、考えを書く。		②	②	◎話し合いを通して、友達に共感したり自分の考えを広げたりしようとしている。 ＜発言・記述＞ ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 ＜記述＞
7	◆ミステリー作品を読み、読んだ意見を交流することができる。				
	・ミステリー作品を読んで、友達にすすめたい内容について意見を交流する。 ・交流を通して興味をもった本を読む。		②	②	◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 ＜記述＞ ◎話し合いを通して、友達に共感したり自分の考えを広げたりしようとしている。 ＜発言＞

8. 本時の学習（6/7）

（1）ねらい

- ・「東君」と「西君」は、これからどうなっていくのか、今までの【捜査】や叙述をもとに考えることができる。

時間	○主な学習活動	※指導上の留意点 ★評価（ ）評価方法
12分	<p>○学習してきたことを振り返り、心情スケールを使って最初の「東君」と「西君」の陰悪な関係について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心情スケールの見方を知る。 ・名前マグネットで自分の考えを掲示する。 	<p>※根拠となる叙述を探し、自分の考えをもつ。</p> <p>※叙述をもとに「東君」と「西君」の最初の関係を簡単に捉えさせる。</p>
28分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>二人は、これからどうなっていくのか、推理しよう。</p> </div> <p>○「東君」と「西君」はこれからどうなっていくのか、自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となる叙述にサイドラインを引きながら自分の考えをもつ。 ・心情スケール上に名前マグネットを貼って自分の考えを掲示する。 <p>○友達と意見を交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲示した名前マグネットを見ながら、友達と意見を交流する。 ・交流を通して自分の考えが変容した場合には、名前マグネットを動かす。 <p>○自分の推理をまとめ、考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心情スケールを模したワークシートに自分の考えを記し、その根拠を文章で表現する。 <p>○全体で交流する。</p>	<p>※全文シートを活用し、自分の考えの根拠となる叙述に鉛筆でサイドラインを引く。</p> <p>※名前マグネットを見て、目的を明確にしながらか交流相手を選ぶように声を掛ける。</p> <p>★話し合いを通して、友達に共感したり自分の考えを広げたりしている。（発言・記述）</p> <p>※自分の考えを表現するのが難しい児童には、書き出しが記入されたワークシートを活用し、支援する。</p> <p>★「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（記述）</p> <p>※叙述に加えて自分の体験を重ねて考えることも促す。</p>
5分	<p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに本時の学びをまとめる。 	<p>※意図的指名をして、意見を共有する。</p>